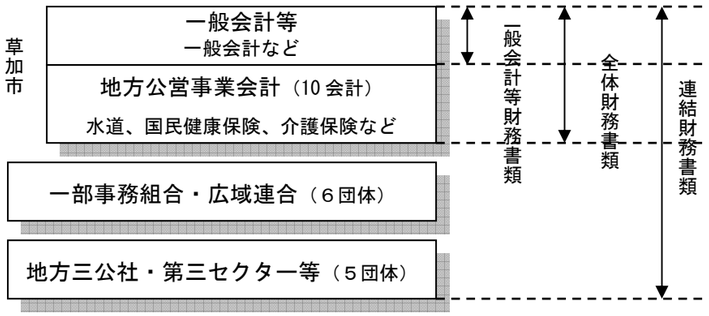
連結財務書類４表からみた草加市の財政

草加市では、財政状況をより正しく把握するために統一的な基準に基づいて連結財務書類４表を作成しています。行政改革を推進し、健全な財政運営を行うための分析に活用していきます。

連結財務書類４表とは？



財務書類とは、民間企業の考え方を基に作成した市の決算書です。財務書類にはいくつかの作成方法がありますが、草加市では「統一的な基準」という作成方法に基づいています。

財務書類は左図のように３つに分けられます。連結財務書類では市だけでなく出資法人などの関係団体も含まれます。

財務書類４表とは貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書を指します。

貸借対照表とは？

貸借対照表はどれほどの資産や負債を持っているかを示すものです。草加市ではこの１年間で資産がやや減っており、負債をやや増やしています。

連結貸借対照表

単位：百万円

資産の部	元年度	２年度	差額	負債の部	元年度	２年度	差額
固定資産	302,821	399,424	96,603	固定負債	85,531	162,662	77,131
有形固定資産	274,817	367,063	92,246	地方債等	64,402	92,858	28,456
無形固定資産	24	6,062	6,038	退職手当引当金	7,738	7,420	△ 318
				その他	13,391	62,384	48,993
投資その他の資産	27,980	26,299	△ 1,681	流動負債	18,170	22,014	3,844
投資及び出資金	11,603	11,603	0	1年内償還予定地方債等	6,777	10,679	3,902
基金	13,743	12,458	△ 1,285	その他	11,393	11,335	△ 58
その他	2,634	2,238	△ 396	負債合計	103,701	184,676	80,975
流動資産	32,621	36,817	4,196	純資産の部			
現金預金	19,321	23,968	4,647				
未収金	3,744	4,002	258	純資産合計	231,741	251,565	19,824
その他	9,556	8,847	△ 709				
資産合計	335,442	436,241	100,799	負債及び純資産合計	335,442	436,241	100,799

道路や公園、学校など

基金（貯金）など

手持ちの現金など

行政サービスを提供するための「もの」

将来の支払い

代金支払いがすでに済んでいる「資産」のうち大きさ

草加市の特徴は（一般会計等）？

草加市は、資産と純資産が大きいことがわかります。草加市は将来世代に過度な支払義務（負債）を残さずに、社会資本（資産）を充実させていることが特徴と言えます。

地方債残高の推移はどうか？

単位：百万円

内容	平成30年度	令和元年度	令和２年度
地方債	58,401	59,969	63,218

負債の大部分を占める地方債残高はやや増加しています。

行政コスト計算書とは？

令和２年度連結行政コスト計算書

単位：百万円

	金額
経常費用	182,592
業務費用	64,938
人件費	24,370
物件費等	37,723
その他の業務費用	2,844
移転費用	117,654
補助金等	47,875
社会保障給付	69,663
その他	116
経常収益	25,117
使用料及び手数料	16,227
その他	8,890
純経常行政コスト	157,475
臨時損失	110
臨時利益	14
純行政コスト	157,571

行政コスト計算書には、令和２年度に草加市と関係団体がサービスを提供するために費やしたヒト・モノ・カネの金額が載っています。経常収益には公営住宅の家賃などサービスの対価だけが計上され、税金は計上されません。

○人件費：職員の給料、令和２年度に増えた退職金の金額など

○物件費等：消耗品の購入費、臨時職員の人件費や委託費など

○移転費用：福祉関係の給付費など

一人当たり純行政コスト（一般会計等）＝３８．２万円

＊新型コロナウイルス感染症の影響により、補助金等が大きく増加したため、昨年度に比べて一人当たり純行政コストが増加しています。

純資産変動計算書とは？

純資産変動計算書は、１年間に純資産がどのように増減したかを示しています。

令和２年度連結純資産変動計算書

単位：百万円

	金額
前年度末純資産残高	244,335
純行政コスト	△ 157,571
財源	162,741
税収等	84,192
国県等補助金	78,549
資産評価差額	0
無償所管換等	1,482
比例連結割合変更に伴う差額	724
その他	△ 146
本年度末純資産残高	251,565

資金収支計算書とは？

資金収支計算書は、現金の流れを示しています。

令和２年度連結資金収支計算書

単位：百万円

	金額
業務活動収支	10,622
投資活動収支	△ 6,191
財務活動収支	852
当期収支	5,284
前年度末資金残高	12,452
比例連結割合変更に伴う差額	7
本年度末資金残高	17,742
（基礎的財政収支）	
業務活動収支	10,622
支払利息支出	1,062
投資活動収支	△ 6,191
基金積立金支出	468
基金取崩収入	2,507
基礎的財政収支	3,454

草加市の特徴は（一般会計等）？

有形固定資産　目的別内訳

単位：百万円

	金額	割合
生活インフラ・国土保全	115,986	50.9%
教育	64,639	28.4%
福祉	7,392	3.2%
環境衛生	2,547	1.1%
産業振興	4,135	1.8%
消防	0	0.0%
総務・その他	32,973	14.5%
合計	227,673	100.0%

○受益者負担比率（経常収益／経常費用）＝２．５％

○純行政コスト／財源＝９８．６％

有形固定資産を見ると、「生活インフラ・国土保全」の有形固定資産が多いことがわかります。「生活インフラ・国土保全」には道路や橋などのインフラ資産が主に含まれています。インフラ資産が有形固定資産の多くを占めていることがわかります。

また、受益者負担比率は、行政コストのうち、例えば公営住宅の家賃などサービスの受益者が負担している分です。草加市は受益者が行政コストの２．５％を負担していることがわかります。

純行政コスト/財源は、当該年度の財源で行政コストをカバーできたかどうかです。１００％以下であればカバーできたことになります。反対に１００％を超えていればカバーできていないことになります。カバーできていない場合は貯金の取り崩しや借金で賄うことになります。草加市は１００％を下回っており、当該年度の財源で行政コストをカバーできたことがわかります。